

# みんなでやるのが楽しかった！お話鉄棒

大西朱夏（枚方市立氷室小）

## 1. はじめに～鉄棒の魅力とは？～

鉄棒の魅力とは何でしょうか。一番は、非日常体験でしょう。逆さになることなんて、日常生活ではまずありえないし、両手で物を持つことはあっても、体を支えることはめったにありません。さらに、後ろに倒れるなんて、イスが倒れた時くらいです。高い所に立つのも、「危ないから！」と止めてしまいません（子どもって朝礼台に上るのが好きですよ）。でも、鉄棒はこれらが体験できます。鉄棒の魅力はそこにあると思います。今までの鉄棒のイメージ「痛い・孤独・苦しい」を「楽しい」ものへと変えたいという思いから実践を始めました。

大阪支部の研究部で話していた時、私は「鉄棒は1人でするもの」という固定概念があったため、「なんで1人でまとめの発表をするの？」との言葉に驚きました。「グループでする鉄棒ってどうなるんだろう？」と思い、今回のグループお話鉄棒に取り組むことにしました。

実践は10月～12月まで行いました。当初、「12月は寒いからやらなくてもいいかな。」と書いていたのですが、結果、子どもたちは「寒い！」とガクガク震えながらも、12月終業式のその日まで、子ども同士で「鉄棒する人～？」「はい！」と声をかけ合いながら楽しく鉄棒をしていました。

## 2. 子どもたちと鉄棒

クラスは2年生25名。支援学級在籍児童も多く、落ち着きのない子どもたちですが、

楽しそうと思ったことには「やりたい！」「どうすんの？」と目を輝かせて取り組む、素直な子どもたちです。まずアンケートをとって、子どもたちの鉄棒への思いを調べました。すると意外にも、鉄棒が好きな子は22名（内3名は、嫌い→好きへ変えていました）、嫌いな子は3名でした。

<好きの理由>

- ・いろいろな技があるし、楽しいし、おもしろい。
- ・できたら「やったー」という気持ちになって、もっとやろうという気持ちになる。
- ・体操を習ってて（スーパーヒーロークラス）試合で使う技ができるから。
- ・回るのがおもしろい。
- ・上に乗ったりするのが好き。
- ・目がくるくる回るし、風が来るから。

<嫌いの理由>

- ・できなかつたら、ちょっとバカにされるからきらい。
- ・落ちたら怖いからきらい。
- ・逆上がりができないからきらい。苦手。（3名中2名）

思っていた通り、「逆上がり」に囚われてしまっている子どもたち。鉄棒が好きな子の中にも、「逆上がりができるようになりたい」と書いている子が多くいました。「逆上がりができる＝鉄棒ができる」という固定概念が2年生でも重くのしかかっている現状が見受けられました。また、保護者も「逆上がりはできるようにしてほしい」という願いを持っていることも少なからず影響していると感じま

す。

さらにアンケートからは、「できるようになりたい」という言葉が多く見られました。子どもたちにとって、「技ができるか、できないか」はとても重要です。結果、技ができない自分はダメだ、そんな鉄棒は嫌いだ、と感じているように思えました。できた！という体験も大切にしたいと考えました。

その中でも、「回るのがおもしろい」「上に乗ったりするのが好き」「目がくるくる回るし、風が来るから」と、鉄棒の魅力に気づいている子もいました。アンケートをもとに、鉄棒嫌いな子が、新たな魅力を見つけられるような授業を組み立てていこうと考えました。

### 3. 授業のねらい・つけさせたい力

(1) 「鉄棒＝逆上がり」の固定概念崩し

鉄棒ではもっといろいろなことができる、自分で考えることで新たな楽しみ方があることに気付いてほしいと思い、「技集め・発明技」「とびとび大会」「グループお話鉄棒」に取り組みました。

2年 体いく

**てつぼう はつ明わざカード**

( )月( )日( )曜日

はつ明しや わざを考えた人	
わざのしゅるい (○をしましょう。)	上がる ・ 回る ・ ぶら下がる ・ 下りる
わざの名前	
わざの絵 かんたんな絵を 描いてね。	
わざのせつ明 上手にするコツ	

(2) 鉄棒でしか体験できない技の習得

はじめにも書いたように、鉄棒では非日常体験ができるのが一番の魅力です。そこで非日常体験ができて、2年生に習得しやすい技を決めておき、その技を中心に授業を組み立てました。

- ・後ろふりとび下り（腕支持、体の振り、見えない所へ跳ぶ）
  - ・すわり（バランス感覚）
  - ・ストロンチョ・地獄回り下り（逆さ感覚）
  - ・スキー下り（高さ感覚・バランス感覚）
- ※子どもたちの発明技です。鉄棒の上に両足で立ち、とび下りる技です。

(3) スムーズに連続技ができるように、体の使い方を考えたり（スピードコントロール）、技を選んだりする。

2年生は、まだ体も軽く、新しいことにどんどんチャレンジしようとする子どもたちです。友だちが考えた技も「やってみよう！」と言います。いろいろな技に取り組むことのできる「お話鉄棒」は適切な教材です。また、友だちと息をそろえる楽しさなど、自分と周りとの関係を考えられるようになるのも2年生です。友だちの動きに合わせるために、技の組み合わせや技のスピードをコントロールする必要性があり、自然とそのような力を身に付けることができます。

### 4. 環境設定・グループ学習

(1) 怖さ・痛みに対して

アンケート結果から、鉄棒に対する「怖さ」を持っている子どもたちがいることがわかったので、環境設定が大切になると考えました。授業では、必ずマットを敷き、帽子をかぶらせました。マットがなければ、保護者に呼びかけて、いらぬ布団を持って来てもらうとマットの代わりになります。マットがあるだけで、「落ちても痛くない」と安心できるのか、

チャレンジしようとする姿が増えました。

そして、鉄棒カバーを取り付けて、痛みに対してもフォローしました。鉄棒カバーの代わりに、いらぬ靴下の先を切ると、ひざカバーができます。二重にすると、それほど痛みを感じません。しかしだんだん熱中してくる6時間目以降は、体が痛くないように体勢を工夫するようになり、痛みよりも楽しさが勝ったのか、「鉄棒カバーがじゃま」と外す子どもが増え、最終的にはほとんどの子がカバーなしで取り組んでいました。

## (2) 個人からグループへ

鉄棒が嫌いの理由の一つに「個人の努力」もあると思います。一人の練習は苦しいし、楽しくありません。できなかつたら、心が折れそうになります。さらに、自分が今どんな状態なのか、どうやったらできるのかが見えにくいのです。そこで、グループ学習に取り組むことにしました。授業では、見せ合いの中で具体的なアドバイスをしている子、上手に補助をしている子を紹介し、「友だちと一緒にコツを見つけたらできそう！」と実感できるようにしました。

グループのメンバーは、基本は背の順で考え、アンケートや1時間目の様子から、苦手な子と得意な(好きな)子がバランスよく入るように考えました。

## 5. 授業計画(全13時間)と子どもの様子

- ① 10/5 鉄棒運動について知る。  
アンケートを書く。

鉄棒と聞いて、ほとんどの子が「やったー！」と口々に話す中、「え～逆上がりできひん…」と顔をしかめている子もいました。

- ② 10/19 鉄棒には、いろいろな技があることに気づく。発明技作り  
技調べでは、どんどん手が上がりました。「むっちゃあるやん!」「鉄棒の技に種類があ

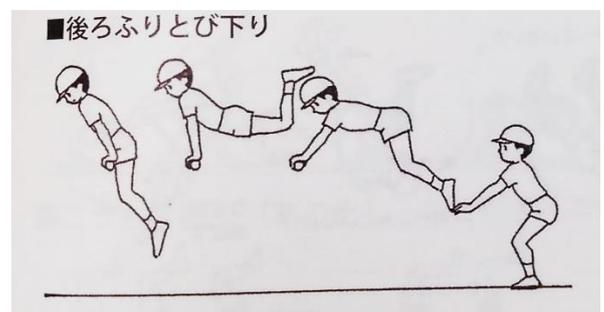
るとは思わなかった」「いっぱい見つけて楽しい」と、意欲的な姿勢が見られました。

発明技では、「もう考えた!」「こんなもええの?」「みんなの想像力がすごい。面白い」「休み時間にやってもいい?」「友だちと2人で考えてもいい?」「連続変身って技(連続技)考えた!」「やってみたら楽しい」「できるようになりたい」と、一気に鉄棒にのめり込む姿が多く見られ、休み時間に子どもたち同士で声をかけ合って、鉄棒をしに行くようになりました。(発明技ブーム到来!)

- ③ 10/26 腕で体を支え、身体を振って跳ぶ動作を身に付ける。

初めての後ろふりとび下りでは、「やりたい!」と興味津々。「さっきよりとべた!」と成果を喜ぶ声だけでなく、「鉄棒でとぶとか初めて知った」と新たな楽しみに気づく声も聞こえました。さらに、「お腹に力を入れる」「肩に力を入れたら、本当にうまくできたからうれしい」と、遠くにとぶコツ(技術)を見つけようとする姿勢も見られ、記録を伸ばす子も出ました。

しかし、すわりとびに取り組むと、「すわれへん」「こわい」「どうやってすわるん?」「先生、台が欲しいです」と、怖い気持ちが大きく、できなくて困る子も出ました。



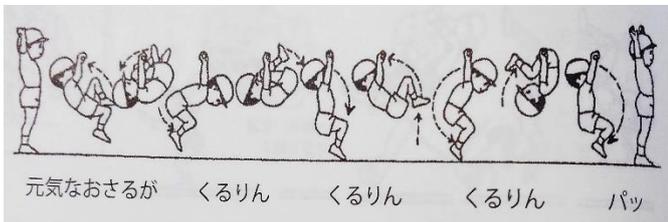
- ④ 10/29 体全体でバランスをとり、鉄棒に座る。(お話鉄棒①)

まずは、前時で困っていた「すわり」の技術ポイントを見つけるグループ学習を行いました。「どうすんの?」「バランスとるのがむ

ずかしい」と言っていました、「足を横の棒に引っかけるねん」「手を持ってもらったらできたー！」と、技術ポイントを見つけ、全員できるようになりました。感想文では「グループで助け合ったらできて、すごい。グループで助け合うといいです」と書いている子ども多くいました。

次に、お話鉄棒①にある技「尻抜き回り」ができるようになるための技術ポイントを見つけるグループ学習をしました。「足もってあげる」「つま先ジャンプ」と積極的に声をかけていく様子が見られました。

(お話鉄棒①)



⑤ 11/2 後ろふりとび下りの中間測定  
避難訓練のため短時間しかできませんでしたが、「ぶーらん、ぶーらん、せーの！」  
「足が前にいったときに、せーの！って言ったらええんちゃう？」「足をくっつけるといいよ」「足だけじゃなく体も振ったらとべる」と、技術ポイントを見つけ、「1m40とんだ！」と大幅に記録を伸ばした子どもいました。

⑥ 11/5 足抜き・尻抜き回りができる。  
お話鉄棒①の表現の工夫を考え、発表会をする。

お話鉄棒①の技、足抜き回りのグループ学習では、「足ここ(鉄棒)」「鉄棒を足で押して回る」「立ってる時に足をかける」と技術ポイントを見つけ、全員ができるようになりました。「できたー！」(拍手)「できてうれしい」とできる喜びから、お話鉄棒①にも積極的に取り組む姿勢が見られました。

お話鉄棒①の表現の工夫を考える時、「ド、レ、ミ、ファ、ソ」「順番にする」「速く！」

「隣が回った瞬間に回る」「遅い人からやった方がいいと思う」と順番にするグループが多い中、「みんなが揃ってたらむっちゃキレイ」「ポーズの時にピシッとすると、そろえることの美しさに気づく子どもいました。「みんなが成功したのがうれしい」と、集団で取り組む楽しさ、新たな鉄棒の魅力を感じた子どもいました。さらに、「カバーがじゃまや。外していい？」という子ども増え、痛くないように体勢を工夫し始める子ども出てきました。

⑦ 11/9 (教室) 鉄棒学習のまとめの発表会の仕方を話し合う。

「どんな発表会がしたい？」という発問に対して、「一人で1つの技を発表したい」「逆上がり(発明技など)を発表したい」と答える子どもたち。そこで、「たくさん見つけたけど1つにする？」と再度たずねると、「確かに。たくさんあんのに1つだけはもったいないなあ」「4~5人で、1つずつ発表したら?」「グループでお話鉄棒のようにしたい」「それええやん!たくさん技できるし!」「自分の発明技も入れられるし!」と盛り上がり、グループでお話鉄棒を考え、発表することになりました。教師が子どもたちの入れたい技でお話を考えてくることを伝えると、子どもは自分で考えたい様子でした。

⑧ 11/12 鉄棒に両足で立ち、飛び降りる。  
(スキー下り・お話鉄棒②)

※お話鉄棒②は、第7時の話し合いで、子どもたちから「自分たちの考えた技も使いたい。」という発言をもとに作りました。技を自分で選んでお話鉄棒を作り、グループで発表しました。

元気なおさるが (とびあがり・逆上がり・蹴上がり)

ぐるっと回って (片足回り・プロペラ)

ものまね大会 (二人カメ・二人寝・ビックビックリ時計)

木に座って一休み（すわり）  
ぐらんと危ない！でもセーフ（天国回り下り・地獄回り下り）

もう一回のぼって（上がり技）  
さあ帰ろう（スキー下り）

全員がスキー下りに取り組むので、どうやったら鉄棒の上にバランスを取って立てるのか、コツを見つけました。高く不安定なところで立つので、怖がってできない子が多く、「手をピンとする。足をゆらさない。」とコツを見つけても、なかなかできませんでした。結果、時間が足りずに「元気なおさる～ものまね大会」までの技決めで終わってしまいました。

⑨ 11/16 お話鉄棒②で、スムーズに技をつなげるコツ・順番を考える。

「元気なおさるが～ものまね大会」のお話に合わせて、スムーズにできるようにするためのコツをグループ学習で考えさせましたが、「で、このうちにS君が落ちちゃうねん」と、「ものまね大会」で落ちてしまう子が続出…「がんばれ！支えるわ！」「Sくんが回ってる間に、二人やっといたらいいんちゃう？」「間に合った～！」「全員でやった方が待たなくていい」と、技や人の並び方を変えるなど工夫し始めたところで授業は終わりました。しかし、20分休みに「手を前後にして鉄棒を持って、プロペラを半分にしたら、二人カメが楽にできる！」と発見した子がいて、次時につながりました。

⑩ 11/21 とびとび大会(後ろふりとび下り)

合図に合わせて一人3回ずつ跳び、一番良い記録をグループノートに書きました。「いった！いった！最高（記録）や～！」「練習の時よりもものびていたからうれしかったです。」「1m50cmとんで、自分でも驚いた」と、ほとんどの子が自己ベストを更新しました。

⑪ 11/30 お話鉄棒②で、表現の工夫やスムーズにできるコツを見つける。

⑫ 12/7 （同上）

「木に座って～さあ帰ろう」までのお話鉄棒②の技を決め、スムーズにできるように練習しました。スキー下りで、全員そろって下りたらカッコいいと言っていた班が、「さあ帰ろう」の声に合わせて下りる練習をすると、順番にするとこだわっていた他の班も揃えることから練習を始め、うまくできるようになっていきました。一方で、できない技にも挑戦する子が多く、技の習熟に集中する班も出ましたが、「魔女やったらできるやろ。だから、ものまね大会は魔女にしよう」と、その子に合わせて技を柔軟に変える班もありました。

最後の通し練習では、2グループでペアを作り、見せ合いをしながら練習しました。「せーのとか言って、タイミングを合わせたらキレイになる」と、スムーズにできる方法をアドバイスし合うことで、より完成度の高いお話鉄棒になっていきました。

⑬ 12/14 まとめの発表会をする。

前時から1週間空いてしまったため、グループ練習後に発表会をしました。結果としては、ドタバタな発表会になりました。習熟が十分でないまま本番を迎えた班が多く、焦ってミスする班が多かったです。しかし、最初と比べると、時間もかからずスムーズにお話が進んでいました。子どもたちは、自分たちの考えた技や自分で技を選べるお話を楽しんでいる様子でした。見ている子も、動きや技が揃うようにお話を言っている姿が多く見られ、それを楽しんでいました。

授業後の振り返りでは、できるようになったこと、たのしかった・おもしろかったこと、できるようになりたいことを書きました。

楽しかった・面白かったこと(複数回答有)では、発明技(5人)、変身技(2人)、お話鉄棒(18人)、できた(4人)でした。理由

は、「考えた技を体育の時に発表できるから」「変身技はいろいろな技が使えるし、できたらどんどん面白くなるから」「みんなに合わせてやるのが楽しかった」「チームワークを高められていい」「はやくキレイにできたらうれしい」「本番でできたからうれしい」でした。

できるようになりたいことに「逆上がり」を書いていた子が6人おり、「足かけ回り」も5人いました。

## 6. 考察

### (1) 技集め・発明技

アンケートで鉄棒が「嫌い」と言っていた子どもたちが、毎日のように、休み時間にも自ら鉄棒をしに行くようになりました。他の先生にも、「2年生、むっちゃ鉄棒してるね！しかも楽しそう！」と言われました。きっかけは、第2時「技集め・発明技」に取り組んでからだと思います。1人での発明技が発展して、2人技や連続技を考えるなど、大ブームになりました。子どもたちの最後の振り返りでも、「自分で技が作れて、やったことがなかったから楽しかった。」「体育の時に発表できるから、うれしかった。」「発明技を考える時が、何にしようと思ったのが楽しかった。」と書いている子がいました。鉄棒の楽しさ・面白さに気づけたら、自然と鉄棒をする時間が増えて、技術習得・コツ見つけ→できた！楽しい！→次に挑戦！…と、相乗効果がありました。表現・創意工夫の保証が、関心・意欲だけでなく、技術の高まりにつながったと感じます。

### (2) 「できる」ことの喜び・コツ見つけ

支援学級在籍児童も多く、体を動かすことが苦手な子が多いクラスでした。実践の初めの方は「こわかった」「できなかった」「痛い…」というふり返りが多かったです。しかし、第5～6時から、「助けてもらって、できるようになりました。」「できてうれしいです。」と

できる喜びを書く子が増えました。グループ学習で見せ合ったり、補助したり、コツを見つけて教えたりしていくうちに、できることが増えていき、自信へと変わったようです。さらに、鉄棒に触れる機会が増えたことで、痛くないように体勢や握り方を変えたり、痛みになれてきたりして、鉄棒運動をする体の使い方が分かってきたようで、お話鉄棒①の発表会で全員、技ができるようになりました。これが大きな自信となり、周りの子どもたちもより積極的に教え合うことにつながりました。たくさんのコツを見つけたので、それを模造紙にまとめていき、視覚的にも分かりやすく残しておけば、さらにコツを見つけることにつながったかもしれません。

また、とびとび大会で「後ろふりとび下り」のコツ（足が前にいったときに、せーの！で足を後ろに振る）を見つけてやってみたとき、記録が劇的に伸びた子どもが多くいました。

「コツを見つけたら、できるようになる！」ことを実感でき、積極的なコツ見つけにつながったと思います。数字で視覚的にも分かりやすく成長を実感できたのも大きいと感じます。

今回は取り組みませんでしたでしたが、子どもたちからは「足かけ回りがしたい！」という声も多く出ました。回転系の技は技術獲得に時間がかかると思いましたが、子どもたちの様子を見てみると、うまく手首を返してスムーズに足かけ回りをする子が数名いました。コツを聞くと、「足を振る」「頭を思いきり前へ」「背中はずっとまっすぐに」「手首をクイっとする」などの技術ポイントをたくさん見つけていました。体の軽い低学年だからこそ、回転系の技ができる可能性があると感じました。また、回る技を1つでもできるようになると、他の回り方を考えたりできるので、低学年から回る技に取り組むと、より鉄棒のおもしろさにはまっていくとも感じます。

### (3) 逆上がりをどうするのか

今回の実践での失敗は、「逆上がり」です。子どもたちのふり返りにもあるように、「逆上がりができた。」「逆上がりができるようになりたい。」と書いていた子が6人いました。逆上がりだけでないと意識させることができたと感じますが、「逆上がりは、たくさんある技の中の一つ」ということを意識させることが必要でした。実践では、他の技と同じように習熟の時間を作っても良かったと思います。それがまた、次の技へのチャレンジにつながったかもしれません。

逆上がりは、他の鉄棒技と違い、ひじを曲げて体を鉄棒にひきつけるという特殊性があります。そのためには、「ふとんほしから、手首の返しを使って体を起き上がる」練習方法や、「頭を後ろに倒す」「足はボールを蹴るように」「目線は鉄棒に」などのコツを見つける必要があります。また、逆上がりの足の動きは、足抜き回りの足の動きに似ています。様々な技に取り組む中で、他の技と比較させながらコツを見つけて、逆上がりができるようにしていくと良いかもしれません。

### (4) 表現の工夫（お話鉄棒）

2年生は、何でも楽しく取り組める学年です。「お話鉄棒」だけでも十分に鉄棒の楽しさを感じてくれたと思います。しかし、子どもたちが一番楽しそうだったのは、お話鉄棒の表現の工夫でした。初めは動きをそろえることから。そこから、「ドレミファソ」「順番にすると楽しそう」「カエルの歌みたいにしてみよう！」と、より意欲的に取り組むようになりました。「順番にする」ことにこだわってしまうことも多くありましたが、ふり返りでビデオを見た時、「順番もキレイだけど、そろえようとして、それが揃っていたら、むっちゃキレイになると思いました」と息をそろえることの美しさも感じた子も何人かいました。

実践で悩んだのは、「お話鉄棒②をどうする

のか」です。こちらが決めた物をそのままするのは面白くない…実際に、子どもたちはこちらの提示するお話鉄棒①で十分満足していました。むしろ、やり切った！と感じている様子でした。話し合いの子どもたちの意見「考えた技（発明技）を発表したい」「いろんな技をしたい」「難しい技をやってみたい」を大切にしたいと思っていました。「たくさん発明技をどうにか使えないか」、「レベルの高い技に取り組みたい子も楽しめるお話鉄棒をどうするのか」…悩んで悩んで考えたのが、「技をいくつか提示して、その中から自分にあった技を選んでもらう」形式（お話鉄棒②）でした。結果、このお話鉄棒②は、技と技のつながりが難しく、スムーズにできるコツが見つけにくかったです。取り組む技が多かったため、技をするのに精一杯になってしまい、技と技のつながりを考えるまでに至りませんでした。

しかし、子どもたちは自分たちの発明技が使えたことに満足感をもって、楽しく取り組んでいました。お話のリズムに合わせることで、友だちと息を合わせることを大切にして、その子にあった技に変えるなど、工夫することができていました。それは表現の工夫なのか？と言われれば、違うのかもしれませんが。さらに全員が同じ技をするわけではないので、グループでやる意味はあるのか？と考えると…ないような気もします。決まった技の中から、「一つだけ自分で決めた技を入れてもいい」とすると、グループでする意味もあるし、自分のやりたいこともできるお話鉄棒になったと思います。

全国大会では、「絶対に入れる技を1～2つ」提示し、「お話」や「他の技」、「技の順番」は子どもたちにゆだねると良いのではないかと、という意見もありました。子どもたちの発明技も使え、技と技のつながりを工夫したり、表現を工夫したりでき、より自分たちに合ったお話鉄棒を考えることができます。

## 7. 次回のお話鉄棒に向けて

今回は、「鉄棒での表現」をメインテーマに実践しました。さまざまな先生の考えを聞いたり、子どもたちの様子をふり返ったりする中で、まずは技術獲得「できた！」を大切にすることが必要なのではないかと感じています。

### (1) 低学年

低学年では、習熟に時間を取り、技ができる中で「回るのが楽しい!」「体を振るのが面白い!」「鉄棒でこんなこともできるんや!」と、鉄棒の魅力をたっぷり味わうことが大切だと思います。体が軽いという特性のある低学年だからこそ、回転系の技の技術獲得ができると思います。(時間はかかるかもしれませんが)

もちろん、グループでの表現の工夫についても学ばせたいですが、ペアかトリオが最適であるように感じます。4人で息を合わせるには、自分以外の3人の動きを察知し、次の技に合わせて自分の動きを制御しなければなりません。低学年にはそれは難しいように感じました。お話鉄棒②でペアの技を入れた際に、ペアで息を合わせる方が技の完成度も高く、息ぴったりの楽しさを感じていたように思います。

さらに、連続技(お話鉄棒)に取り組むならば、技と技をつなぐためのコツを見つける学習も必要です。そのためにも、つながりが分かりやすい技のお話鉄棒(モデル)を提示し、コツを見つける時間をとる必要があると思います。そのあとに、技を1つだけ変えて、オリジナルお話鉄棒を考えると、低学年でも連続技(表現の工夫)の学習ができると思います。

また、表現を楽しむためには、鑑賞する力を身に付けることが大切です。低学年から、グループ学習などで友だちの動きを見ると、ただ見るだけでなく、ポイントを絞って

見ることを意識させていくことも大切です。その上で、どこが良かったのか、どうしたらもっと良くなるのかを考えさせたり、友だちに伝えたりする活動を通して、鑑賞する力=表現する力が身につく、結果、表現を楽しむことにつながると思います。

### (2) 中・高学年

だんだん体が重くなる中・高学年では、新たな技・技術獲得には時間がかかります。技術獲得は最低限にし、表現の工夫をメインにしても良いのではないかと思います。グループで息を合わせるためには、技術獲得も大切ですが、友だちや自分の動きを予想し、それに合わせてスピードコントロールする必要があります。中・高学年になると視野も広がり、複数の友だちの関係・動きにも気づくことができるようになるという特性から、中・高学年にぴったりの学習課題になると思います。

## 8. おわりに

鉄棒運動では、どのような力を身に付けることができるのか?そこから始まり、十分な教材研究ができていない中、手探りで行った実践でした。子どもたちが、鉄棒が楽しい!と感じてくれたのが救いです。

そして、今年は二年連続の2年生を担当できることになったので、もう一度、鉄棒実践ができる!とワクワクしています。子どもたちの実態が異なるので、どんな発明技が出てくるのか、鉄棒の何にはまっていくのか…とても楽しみです。子どもたちだけでなく、教師自身も楽しむことを忘れず、授業作りに取り組んでいきたいです。